

平成 20 年 7 月 15 日

1号機サービス建屋内における空調ダクト不具合の調査結果について

東京電力株式会社
福島第二原子力発電所

<概要>

(点検結果・外部への影響)

- 平成20年7月11日に1号機サービス建屋内(非管理区域)にある空調ダクトのつなぎ目1箇所からの気体が漏れていることを確認したことから、7月14日に当該ダクトの他のつなぎ目について点検をしたところ、新たに10箇所のつなぎ目から気体が漏れていることを確認しました。
- 調査の結果、いずれも外部への放射性物質の放出はなかったものと考えております。

(対策)

- 今回の点検で確認された漏えい箇所については、補修を行いました。
- 今後、当該ダクトは、計画的に点検を行うこととします。

(公表区分)

- 本事象は公表区分Ⅲ(信頼性を確保する観点)としてお知らせするものです。詳細は以下のとおりです。

1. 点検結果・外部への影響

(1) 空調ダクトの点検計画について

平成20年7月11日に1号機サービス建屋^{*1}内(非管理区域)にある空調ダクト(以下、当該ダクト)のつなぎ目1箇所から気体が漏れていることが確認された事象を踏まえ、当該ダクトの他のつなぎ目(全ての類似箇所・75箇所^{*2})について点検を実施し、点検の結果をとりまとめて公表することとしておりました。(平成20年7月14日お知らせ済み)

(2) 点検結果について

7月14日、当該ダクトの他のつなぎ目(全ての類似箇所・75箇所)について点検を実施した結果、新たに10箇所から気体が漏れていることを確認しましたが、いずれも外部への放射性物質の放出はなく、また、主排気筒放射線モニタ^{*3}、および空間線量率を測定するために発電所敷地周辺に設置されているモニタリングポストの値は、通常の変動の範囲内であることから、周辺環境への放射能の影響はなかったものと考えております。

2. 推定原因

調査の結果、当該ダクトについてはこれまで点検を行っていなかったため、つなぎ目のゴムパッキンの経年劣化、および隙間の拡大を確認できず、漏えいに至ったものと推定しております。

3. 対策

対策として、当該ダクトつなぎ目の漏えい合計11箇所について、補修を行いました。今後、当該ダクトの点検周期を定め、計画的に点検を行うこととします。

以 上

*** 1 サービス建屋**

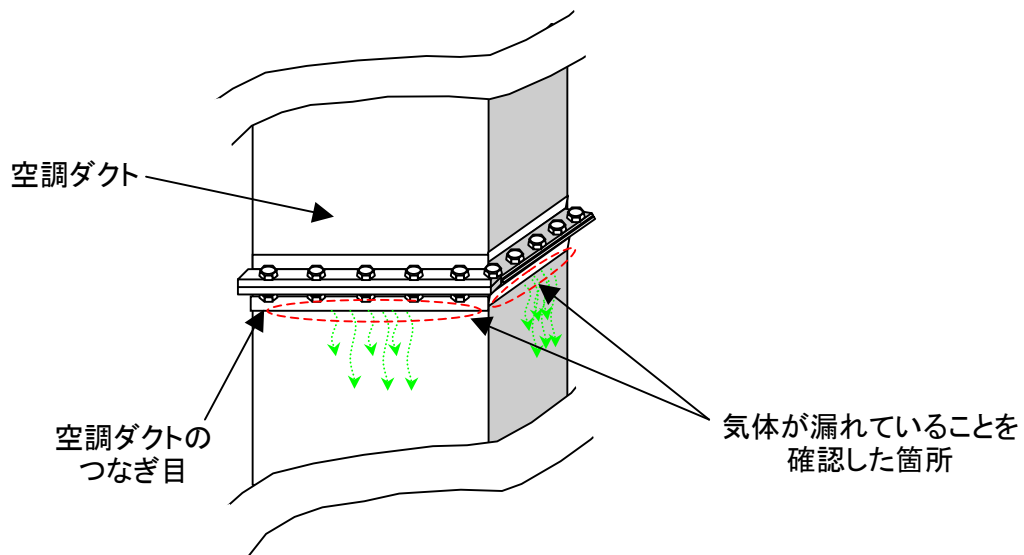
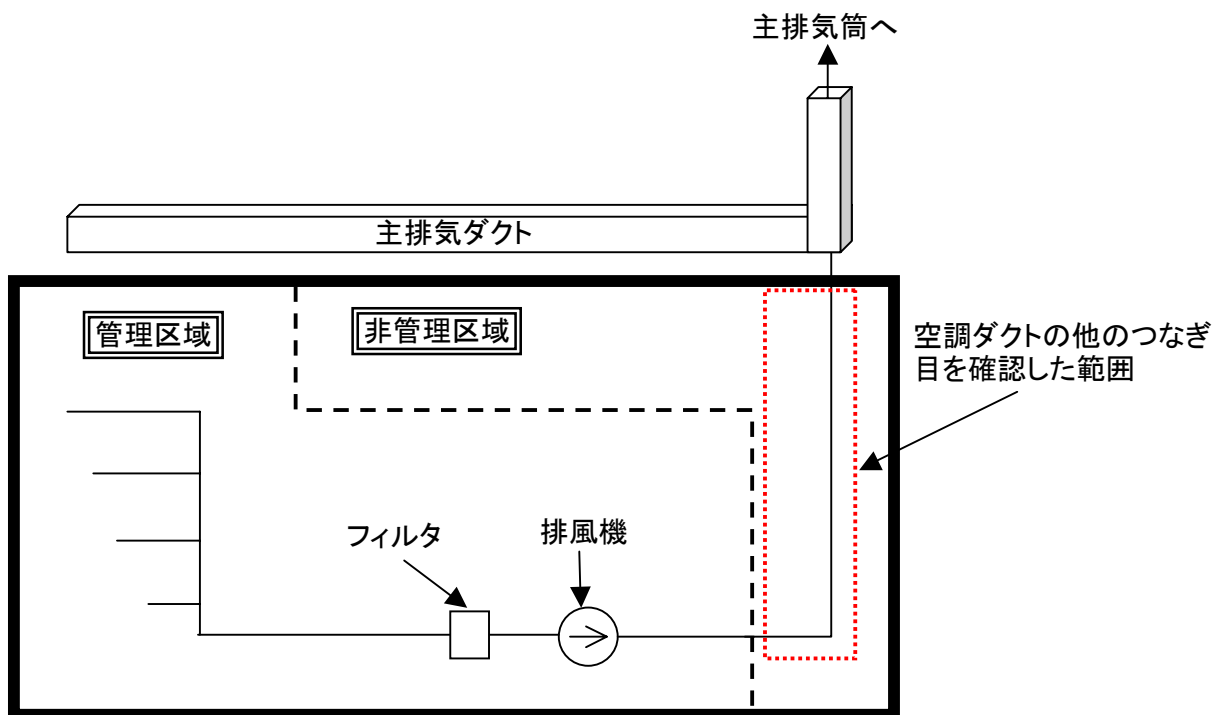
中央制御室や管理区域への人の出入りをチェックする他、作業員の休憩等の場所として使用している建屋。

*** 2 75 箇所**

7月14日にお知らせした他のつなぎ目（全ての類似箇所）の数値（82箇所）については、その後の現場確認で75箇所であることを確認したため、数値を訂正。

*** 3 主排気筒放射線モニタ**

建屋内の空気はフィルタなどを経由し、排気筒から放出している。主排気筒放射線モニタは環境への放出にあたり、排気中の放射線を測定する装置。



1号機 サービス建屋 管理区域空調ダクト概略図